



ゼンペザム著  
何禮之譯

民法論綱

卷三

新編

3

和装本

711  
6  
3





門ノ係11  
第 6  
卷 3

民法論綱卷之三

第十五回 安固ヲ侵スノ類例

茲ニ所謂安固ヲ侵スノ類例ヲ拈出

一層審ラカニ其道理ヲ啓示シ而メカノ道義ノ點ヨ

リ視テ既ニ不義トナス者ハ之ヲ政治ノ上ニ施スモ

亦無罪ト見做シテ宥恕ス可ラサルヲ曉知セシム

ルノ一端トナサンカ爲メナリ、實ニ道義ノ點ヨリ視

テ不義ナリト認メ之ヲ許容セサルモノヲモ、政治ノ

上ニ於テハ特ニ辭柄ヲ設ケテ之ヲ容忍スルノ弊往

何 禮之譯



民法論綱 卷之三 第十五回



往之アルヲ以テナリ

考古學ノ一科ハ今日ノ時勢ニ害アル效果ヲ結フモノト謂ハサルヲ得ス其所以ヲ陳述センニ少年輩ハ韶亂ノ時ヨリ學校ニ入りテ羅馬史ヲ讀ミ彼ノ人民カ公然ト不義惡行ヲ恣ニシ而メ其邪惡ヲ掩ハンカ爲メ特ニ口實ヲ附會シテ之ヲ羅馬人ノ德行ナリト讚美スルヲ目撃スルナルヘシ即チ負債ヲ解放セシ一事ハカノ共和國初ノ虐政ノ一ニシテ最モ著明ナルモノナリ當時敵軍既ニ都城ノ門ニ迫ルニ際シ人民ハ退キテアウエンチン山ニ屯守シ元老院ヲ脅カ

シテ一切債主ノ權利ヲ消却スル法律ヲ制定セシメタル然ルニ修史者ハ文ヲ舞シ詞ヲ飾リテ以テ少年輩ヲ誘惑シカノ詐謀ヲ以テ自ラ身家ヲ破リ而メ負債ノ責ヲ脱シタル猾徒ヲ惠愛シ却テ此虐政ニ依テ損失ヲ招キタル良民ヲ仇視スル偏心ヲ起サシメル思ハサルノ甚シト謂フヘシ○抑此暴行ニ依リテ果シテ幾多ノ利益ニ浴セシヤ我レソノ利益ヲ見サルナリカノ國民ノ此盜賊ノ舉動ニ及ヒシ所以ハ唯貸借ノ利ノ貴キニ過キタルヲ口實トシ之ニ由テ富者ヲ剝奪セシニアラサルハ無キヤ然ルニ債主ハ今日



此ノ如キ禍害ニ罹リテ大ニ其富ヲ失フト雖モ明日  
ヲ俟スシテ再ヒ其業ヲ復シ利子ハ愈貴クシテ却テ  
昨日ニ倍蓰スルアルノミ、是レ昨日ノ禍ニ懲リテ契  
約ノ頼ムヘカラサルヲ知リ故テニ利ヲ高クシテ以  
テ危険ヲ冒スノ價ト爲スヘケレハナリ、○羅馬人ハ  
他國ヲ攻畧シテ藩屬ト爲スヲ以テ國謀深遠ナリト  
誇稱シタリ然レ氏必竟他人ノ國土ヲ掠奪シテソノ  
地主ヲ放逐シ以テ之ヲ我カ人民ニ分配スル強盜ノ  
舉動ニ過キサルナリ  
斯ノ如キ專暴ナル舉動ハ帝ニ眼前ニ殘酷ナル效果

ヲ結ヒシノミナラス、而カモ後來大ナル禍根ヲ貽セ  
ルモノト謂フヘシ、何リヤ羅馬人ハ慣習性ト爲リ資  
産ノ權利ヲ破毀シテ毫モ躊躇セス、暴虐ノ政、進長シ  
テ之ヲ止ムル所ヲ知ラス、茲ニ於テ兵士ハ絶エス新  
地ノ分配ヲ要求シ其弊ヤ之ヲ要求スルヲ以テ常ニ  
反亂騷擾ノ口實トナシ、竟ニトリウミウルスノ治世  
ニ及テハ之ヲ奈何トモスルヲ能ハス、全國ノ土地ヲ  
沒收シテ其求メニ應ヌルカ如キ猛惡ナル法令ヲ施  
スニ至レリ  
希臘共和邦ノ古史ニ於テモ此例ヲ見ルヲ復々甚々



多シ唯其方法稍理ニ似タルヲ以テ思慮謏薄ナルモ  
 ノヲ眩惑セルト亦從ツテ著大ナリトス彼ノリクル  
 グスハ尚武ノ國體ヲ建立センカ爲メニ土地ヲ均分  
 シテ諸ノ權利ハ之ヲ舉テ武人ニ歸シ一切ノ服役ヲ  
 以テ自餘ノ人民ニ擔當セシム以テ一ノ大不平均ヲ  
 國中ニ生セリ而シテ之ヲ看テ貧富ノ同一ヲ得シモ  
 ノトスルハ大ナル誤解ト謂フヘシ

原註

リクルグスカ制定シタル諸ノ法律ノ中ニテ  
 土地ヲ均分セシ一舉ハ國人ノ之ニ牴牾セシモノ  
 最モ尠ナカリシト云フ蓋シ政綱紐ヲ解キテ騷亂

止ム時ナク民産殆シト其價值ヲ失フタルニ由リ  
 テ此奇異ナル法制モ能ク行ハルヲ得タルナル  
 ヘシ何トナレハ安固ナル十頃ノ田地ハ安固ナラ  
 サル十頃ノ田地ヨリモ貴重スヘキカ故ニ富者ハ  
 其産ヲ削ラレタルモソノ遺ス所ハ安固ニシテ却  
 テ其利ヲ得タレハナリ  
 希臘人羅馬人カ安固ヲ侵犯シタル治術ニ就テハ今  
 日尚ホ尚古者流アリテ之ヲ曲庇シ肯テ貶詞ヲ下セ  
 ルヲ見ス然ルニ東洋諸邦ノ君主ニシテ若シ之ヲ行  
 フモノアレハ必ス嗽々トシテ之ヲ譴責セサルハ無



シ○抑、一頭專制ノ國ニ於テハ萬機皆ナ一人ニ決シ  
威福ハ全ク獨有スル所ト爲リ、疾苦ハ億兆ノ受クル  
所ト爲リテ、一目其曲直ヲ知ルヘキカ故ニ、君心ヲ誘  
掖シテ暴虐ノ政ヲ施サシムルニ至ルハ僅有ノ事々  
リト雖モ、多頭ノ專制ニ於テハ公利公安ノ虛影ヲ藉  
リテ以テ思慮薄ナル人民ノ心ヲ誘惑シ而シ己カ  
黨派ノ多數ナルヲ以テ、其利害得失ヲ討論スルニ當  
テモ唯多數ノ發言ヲ恃ミテ恣ニ暴虐ノ舉措ヲ爲シ  
曾テ少數ノ黨派ハ之カ爲メニ怨ヲ飲ミ聲ヲ忍テ疾  
苦ヲ訴ル所ナキモノアルヲ諒察スルト無キナリ○

此故ニ東洋諸國ノ君主ト執權大人トノ行爲ハ之ヲ  
檢束セサルモ、史家其曲直理非ヲ竹帛ニ直筆シ、敢テ  
曲庇回護スルトナク自ラ後世ノ殷鑑トナリ、其害ハ  
決シテ多頭ノ專制ノ如ク甚シキニ至ラサル可シ  
一國ノ財政ヲ潰亂シテ人民ノ安固ヲ侵スカ如キニ  
至テモ、其理亦相異ラサルカ故ニ之ヲ再ヒ茲ニ論ス  
ルヲ要セス、唯タ約諾ヲ食マヌシテ信義ヲ人民ニ伸  
フルハ、君主ノ權威ニ於テ著明ナル效果ヲ生スルモ  
ノニ依リ、斯ニ此一事ヲ記述セン○英國ニ於テハコ  
ロムウエルノ革命以來、國家ノ約諾ヲ見テ神聖、皆ク



可ラサルモノト爲セリ、故ニ政府ニ金ヲ貸ス所ノ人  
 民ハ單ニソノ歳入ヲ抵當ト爲シテ他ニ典物ヲ要セ  
 ス、從ツテ歳入徴收ノ權ハ常ニ王家ノ掌握スル所ト  
 爲レリ、顧ミテ佛蘭西ヲ望メハ、ソノ立君政ノ時ヨリ  
 既ニ國家ノ約諾ヲ破リ信義ヲ人民ニ失スル一  
 ニ止ラサルヲ以テ、金ヲ政府ニ貸スモノハ必ス自ラ  
 收斂ノ權ヲ要求シ、自ラ徴收セシモノヲ以テ己カ貸  
 金ヲ償フノ慣習トナレリ。○斯ク一國租稅ノ權、政府  
 ノ債主ニ歸シテ自ラ收斂ヲ爲スニ至テハ、彼輩ハ固  
 ヲリ人民ノ利害ヲ謀ルモノニアラサレハ、苛酷盡サ

ル處ナク唯己カ債金之レ償フニ在ルノミニ天同  
 胞ノ人民ヲ魚肉視スルハ更ニ怪シムニ足ラス、同胞  
 ノ人民ヲ遇スル尚ホ然リ況ヤ人君ニ對スルニ於テ  
 オヤ人民ヲシテ君主ヲ仇視スルニ至ラシムルハ必  
 然ノ事ナリ。○故ニ千七百八十七年佛蘭西政府ヨリ  
 會計短縮ノ一ヲ公告スルニ際シテ、其債主タルモノ  
 ハ忽チ政府ヲ顛覆セント欲スル惡念ヲ發生セリ、英  
 國ニ於テハ否ラス、政府ノ債主ハ常ニ國家ヲ維持シ、  
 ソノ鞏固ナルヲ以テ己カ利益ト爲スナリ、是レ佛國  
 ニ於テハ政體ヲ變革シテ君主ノ手ヨリ會計ノ大權



ヲ奪ヒ取り之ヲ國會ニ委託スルヲ以テ最モ安固ナルモト信用スレハナリ然リ而メ果シテ之ニ依リテ債主ノ希望ニ副ヒシヤ否ヤハ紀傳ヲ讀ム者ノ能ク知ル所ナリ○夫ノ外觀ニ於テハ金甌無缺ノ立君政タル佛國ニシテ斯ク容易ニ潰亂覆亡セシ所以ハ第一人民カ政府ヲ信任セサルニ在テ而メ其源ハ屢約諾ヲ破リシニ胚胎セリ執政者以テ鑑ミサル可ケンヤ

或ハ蒙昧頑愚ニ由リ或ハ怠慢過失ニ由リ或ハ事物ノ真理ヲ誤解スルニ由リテ人民ノ安固ヲ侵犯セシ

類例ハ夥多ニシテ屈指ニ暇アラズ斯ニ其數件ヲ論シテ以テ一斑ヲ知ラシメントス

第一 偏頗ノ租稅即チ賦課ノ輕重其當ヲ得サル一譬へハ貧者ニ酷ニシテ富者ニ寛ナルカ如キ是レナリ○抑此害ハ其性己ニ猛劇ナルニ加フルニ彼此輕重ノ不同アリ獨リ他人ニ比シテ多キヲ出スニ至テハ不平ヲ憤ルノ念之ニ苦ムノ情ト相合シテ其禍一層慘烈ナルモトナリ

若シ又公役法ヲ制立シ之ヲ餘財ナク唯ソノ筋骨ヲ營苦シ之ニ資テ一日ヲ過スモノニ吩咐スルニ至レ



ハ則チ同一ノ理ヲ失スルノ極度トナル可シ

一定セサル資本及ヒ堪ヘ難キ私人ニ賦課スル租税

○此害ハ其方向ヲ換ヘテ發現スルモノニテ、貧人ハ

租税ヲ納メ能ハサルニ由テ己ニ聚斂ノ苛虐ニハ苦

シムト無シト雖モ、一身ノ衣食ヲ計ルニ道ナキヲ以

テ、其疾苦ハ聚斂ニ於ルヨリモ過カニ太甚シキモノ

アリ、是レ人頭税ノ如キハ最モ理ニ戻ル所以ナリ、蓋

シ人ハ貧富ヲ論セス其頭ヲ有セサルモノハアラス

ト雖モ、其身ノ境遇ニ至テハ福否大ニ相異ナレハナ

リ

專賣ノ特准ヲ付與シ、會社ノ數ヲ制限スルカ如キ、貿

易工業ヲ束縛スル處ノ租税○此等ノ租税ヲ定ムル

實則眞法ハ、ソノ會社等ノ收入ノ多大ナルヲ謀ルニ

アラス、唯ソノ收入ヲ撙節セントテ謀ルニアルノミ

人ノ生計ニ缺ク可ラサル要品ヨリ收斂スル處ノ租

税○其害ハ一身ノ窮乏ヲ致シ、疾病ヲ醸シ、踵テ性命

ヲ喪失スルニ至ルモ、而カモ其原因、幽微ニシテ看破

シ難キヲ以テ一人ノ之ヲ曉知スルモノナシ、素ト此

害ハ政府人失錯ニ出テ、天然ノ弊之ニ混和シテ終ニ

防クヘカエサルモノト爲ルナリ



私人ノ田地ヲ賣却スルニ就テ收斂スル處ノ租税○  
 概スルニ人民貧窮ニ迫ルニアラサレハ敢テ其田地  
 ヲ賣却スルヲ無シ然ルヲ以テ政府ハ人民ノ不幸ニ  
 乘シテ之ニ關涉シ、仍テ貧者ニ過當ノ罰金ヲ課スル  
 モノト謂ハサルヲ得ス  
 投賣及ヒ競賣ノ物品ヨリ收斂スル處ノ租税○其害  
 ヤ言ハスシテ明白ナリ、且理財ノ道ニ於テモ其正ヲ  
 失スルモノト謂フヘシ  
 訴訟ノ租税、即チソノ手数料○此租税中亦タ安固ヲ  
 侵犯スル諸害ヲ包藏ス、抑、此租税アルハ恰モ之ヲ納

ムルノ力ナキモノニハ法律ノ保護ヲ吝ミテ與エサ  
 ルモノ、如シ、是ヲ以テ姦猾ノ徒ハ罪ヲ犯シテ其罰  
 ヲ遁ルヘキ希望ヲ生シカノ訴訟ノ費用ヲ出シ能ハ  
 サル人民ヲ撰ミテ己カ不義ノ魚肉ト爲シ、敢テ忌憚  
 スル處ナキニ至ルヘシ  
 第二 強テ通貨ノ價ヲ貴クスルヲ○此法アル亦安  
 固ヲ侵スノ一事タリ、何トナレハ政府ニ於テ理々當  
 ニ償フ可キ額數ヲ減シテ償ナハサルヲ以テ、之ヲ國  
 家ノ破産ト謂フモ不可ア耳、而シテ之ヲ償フノ實ナ  
 クシテ之ヲ償フノ名ヲ得ルヲ以テ、又欺詐ノ破産ト



謂フモ妨ケナシ、然レモ到底一人ヲモ欺キ能ハサル  
ヲ以テ、又之ヲ詐欺ノ最モ迂拙ナルモノト謂ハサル  
ヲ得ス。○此法ハ君主タルモノ親ヲ盜賊ノ行ヲ爲シ  
テ債主ノ富ヲ掠奪シ、而メ又各債主ヲシテ己カ歳入  
ヲ掠奪スルヲ允許シ、上下交相欺キテ之カ爲メニ  
公帑ヲ充實スルヲナク、要スルニ負債ノ一部ヲ破毀  
スルノ拙舉ニ過キサルノミ。○抑、此拙舉ハ果シテ君  
主ノ不義ヲ達シテ其心ヲ満足スヘキ乎、豈其レ然ラ  
シヤ、徒ニ此一舉ハ以テ全國人民ノ信憑ヲ失ヒ、以テ  
正直ナル人民ノ富ヲ損傷シ、以テ狡猾ノ徒ノ私囊ヲ

肥シ以テ貿易ノ變亂ヲ釀シ、以テ税則ヲ破壊シ、其他  
無量ノ弊害ヲ生シテ國民ヲ窘窮ナラシム、而メ政府  
ハ毫末ノ利益ヲ收ムルヲ能ハスシテ其得ル處ノ果  
實ハ名譽ヲ墜スノ一事ニ歸スルノミ、況ヤ國家ノ歳  
入、歳出ノ相稱ハサルハ、其昔日ニ比スルニ依然トシ  
テ理財ノ道、壅塞スルニ於テヤ、  
第三 強テ金利ヲ低下セシムルヲ○經濟ノ理ニ據  
テ之ヲ論スルハ、法律ヲ以テ金利ヲ低下ナラシム  
ルハ外國ヨリ資本ヲ輸入スルモノニ一定ノ報酬ヲ  
與フルヲ許サ、ルニ當リ、且金利ニ定制アルハ以



テ債主ノ危殆トスル處ヲ豫防スルニ足ラサルカ故  
 ニ、人心之カ爲メニ畏縮シ、商賈足ヲ衰ミテ新ニ貿易  
 ノ道ヲ開クモノナク、舊立ノ貿易モ亦萎靡衰頽ニ就  
 キ、忽チ人民ノ財源、壅塞スルニ至ルヘシ  
 更ニ一步ヲ進メテ切近ナル安固ノ論題ニ就テ之ヲ  
 考慮スル時ハ、即チ之ヲ貸ス人ニ取テ以テ之ヲ借ル  
 人ニ與フル偏頗ノ措置ニ過キス、譬ヘハ金利、五分ノ  
 一ヲ低下セシニ、乃チ貸ス人ニ於テハ毎年、盜賊ノ難  
 ニ遇フテ其財ノ五分ノ一ヲ奪ハル、モノニ異ナラ  
 サルナリ

若シ制法者其初メ富有ノ國民ヨリ收入ノ五分ノ一  
 ヲ取り去ルヲ以テ果シテ治國ノ肯綮ニ中レルモノ  
 ト爲サハ、何ソ再ヒ他ノ五分ノ一ヲ低下セシテ茲  
 ニ止マルヲ要センヤ、已ニ初度ノ低減ヲ以テ策ノ得  
 タルモノトセハ必ス再度ノ低減ニ於テモ不可アル  
 下ナカル可シ、果シテ初度ノ低減ヲ以テ可ナリトセ  
 ハ何ソ再度ニ於テ之ヲ不可トスルノ理アラシヤ、然  
 ルニ制法者カ初度ノ低減ニ止マリテ再度ニ及ハサ  
 ルハ必ス茲ニ止マルヘキ所以ノ理アルナル可シ、然  
 レモ初度ニ止マリテ再度ニ及ホス可ラサルノ根理



氏法言紀 卷之三 十一 何氏藏板

ニ溯ル片ハ、以テ初度ノ低減ヲモ亦々行フ可ラサル  
ノ道理自ラ存スルヲ知ルヘキナリ

此舉措ハ宛モ地主ヲ以テ無用ノ游食者ト爲シ農夫  
ヲ以テ物ヲ産スルノ勞作者ト爲シ地主ヲシテ地租  
ヲ低下ナラシムルノ法律ヲ制定スルモノ、如シ  
若シ制法者國民ノ一部ヨリソノ安固ノ大綱ヲ剝奪  
スル片ハ其害必ス波及シテ人民總體ノ安固ヲ撼動  
スルニ至ル可シ是レ國家ノ安固ハ彼此愜和シ交互  
連結スルノ上ニ存スレハナリ

第四 一般ノ抄没○事實其人ノ罪犯ハ輕微ナリト

雖モソノ財産ヲ抄没スルノ趣意ヲ以テ之ニ曖昧々  
ル國事犯ノ冤罪ヲ被ラシム、一類或ハ一派ノ人ヲ殘  
虐シテ困難窮窮ナラシム之ヲ一般ノ抄没ト稱シテ  
安固ヲ破ルノ甚シキモノナリ古今ノ史冊上比々ト  
シテ其往蹟ヲ舉ケサルハ無シ猶太ノ宗徒ハ常ニ財  
ニ富ムヲ以テ世ニ知ラレタルカ故ニ往々暴君汚吏  
ノ魚肉トナリテソノ慘禍ニ罹レリ之ニ亞テハ財政  
ヲ掌リ或ハ聚斂ヲ職トスル人モ亦其殷實ナルカ爲  
メニ火宅ノ刑ニ羅織サレタリ昔時ノ立君國ニ於テ  
若シ君主殂落シテ其位ヲ嗣クモノ未タ定マラサル



一方ツテハ先君ノ寵臣ハ皆ナ罪人ト爲リテ直ニ滅亡シ其遺産ハ盡ク新君ノ所有ニ歸シ之ヲ翊戴ノ功臣ニ分與スルノ賞典ト爲セリ○又共和政ノ黨派ヲ以テ分裂セルモノニ於テハ志ヲ得テ權ヲ執ル所ノ黨派ハ常ニ他ノ權カナキ黨派ヲ視ルニ國賊ヲ以テシ從テ其財産ヲ抄没掠取シ而シテ其黨勢ヲ失ヘハ亦他黨ノ殘害スル所ト爲リ乃チ先日他ノ黨派ヲ虐待セシモノ今日之ヲ己ニ受ク甲起リ乙仆レ彼此相吞噬シテ爭亂息ム時ナシカノ羅馬ノ抄畧ノ法制ナルモノ即チ是レナリ

國中ノ有力者就中民主國ニ於テ衆望ヲ得タル黨派ノ罪惡ハ後世ニ於テ必ス之ヲ寬貸スルモノ憲史家ノ如アルヲ得ルナリ之ヲ曲庇スル論ニ曰ク蓋シ素封ノ家ハ皆チ不義ヲ行フテ富ヲ致セシモノナリ今之ヲ抄没スルハ即チ曾テ人民ヨリ奪フ所ノモノヲ取テ以テ之ヲ人民ニ還與スルノミト嗚呼論者カ暴政ヲ懲息シテ其虐ヲ逞フセシムルノ甚シキ何クニ茲ニ到ルヤ是レ此論ハ猶ホ罪惡ヲ措テ罰セサルノミナラス却テ之ニ勸メテ不義ノ行ヲ爲サシムルニ異ナラス若シ此論理法ニ據ル片ハ人民ハ決シテ

民法論綱 卷之三 五 何氏藏板



財ニ富ミテ其身ノ罪ヲキヲ得ヘカヲサルニ至ルヘシ  
 ○夫レ抄没ノ如キハ刑ノ大ナルモノナリ然ルニ  
 一言ノ以テ其罪ヲ鞫訊スルヲ無ク規矩方式ヲ履行  
 セス又實據確證ヲ俟タスシテ直ニ此嚴刑ヲ一派ノ  
 人民ニ施スハ抑モ其理アリトスル耶否此法ハ之ヲ  
 一個ノ私人ニ施スモ尚ホ暴政タルヲ免レズ然ルヲ  
 何ソ一派ノ人民ニ施スニ於テ却テ理義ニ合シタル  
 モノトスルヲ得ンヤ將タ論者ハ此害ヲ夫ノ海舶ノ  
 風濤ノ難ニ遇フモノニ比喻シ天同舟ノ人衆多ナル  
 モ俱ニ魚腹ニ葬ラサルヲ得サルト同一ノ觀ヲ爲ス

耶其理其非智者ヲ俟タスシテ判然タルヘシ且素封  
 ノ家ヲ責ルニ其父祖ノ不義ヲ以テ殷富ヲ獲シテ口  
 實ト爲シ之ヲ罰スルニ抄没ノ虐法ヲ以テスルハ恰  
 モ城中ニ盜賊ノ或ハ匿ルヲ疑フテ忽チ城壁ニ向  
 テ炮撃スルニ相齊シキナリ

第五 僧院寺觀ヲ解散スル

譯者曰ク此僧院寺觀ハ即チモナスタクオールドル  
 及ヒコンフエントト稱スルモノニテ唯法皇ノ教  
 令ヲ奉シテ國君ノ命ニ從ハス田地ヲ所有シテソ  
 ノ租税ニ食ミ其他世俗ノ曾テ有セサル特權殊典



ヲ占有シ、大ニ政府人民ノ障害ト爲ルモノナリ  
 ○之ヲ解散スルノ法律ハ、道理ノ證印ヲ捺スルモノ  
 ナリ〔蓋〕此舉ハ理ノ當ニ然レバ、其施爲ノ際ニ於テ絶  
 然ルヘキト云フ義  
 へテ偏私貪婪ノ情ニ支配サル、可ラス、唯僧院ニ命  
 スルニ新タニ徒弟ヲ度スル勿ラシムルニテ足ルノ  
 ミ、然ルキハ僧院ハ徐々トシテ其緒ヲ解キテ、一朝衣食  
 ニ窮スル人アルノ患ナカルヘシ、而シテ之ニ由テ獲ル  
 所ノ蓄積ノ資金ハ、之ヲ吃緊ナル國需ニ活用シ能フ  
 へシ、原來、此舉ハ其性既ニ懿美ナリ、如ルニソノ施爲  
 復タ寛厚ニシテ人ヲ困シメサル片ハ、哲理學ノ讚嘆

賞美ヲ得ルハ必然ナリ、然レバ苟モ貪婪ノ心ヲ懷ク  
 モノハ、決シテ徐々寛厚ノ施爲ヲ好マス、曾テ諸國君  
 主ノ僧院ヲ解散スルモノヲ見ルニ、從來、教會ヨリ受  
 ケ得タル弊害ヲ一洗セントシテ却テ僧侶ヲ懲罰ス  
 ルモノ多キニ居ルナリ、知ラスヤ、教會ト僧人トハ全  
 ク相異ルモノニテ、僧人ハ猶ホ鰥寡孤獨ノ窮民ノ如ク、  
 制法者ノ仁慈憫憐ニ賴ラスシテ將タ何ソ其衣食ヲ  
 供給スルヲ得ンヤ、然ルニ之ヲ見ルト讐敵ノ如ク、既  
 ニ其富財ヲ奪ヒ既ニ其巢窟ヲ毀テ、僅カニ生計ノ資  
 アレハ乃チ之ヲ分外ノ恩ヲ私スト爲ス、豈ニ過酷ノ



業ニアラスヤ

第六 官職ヲ廢シ俸秩ヲ奪フテ之ニ辨償ヲ給與セサルヲ○斯ノ舉措ヲ以テ安固ヲ侵スモノハ之ヲ不義ナリト咎責セサルノミナラス却テ治圖ノ當ヲ得經濟ノ理ニ中ルモノト誤認シ之ニ左祖スルモノ少ナカラサルカ故ニ茲ニ之ヲ審論密察セサル可ラス

○夫レ嫉妬ノ情ヨリ發スル處ノ暴行ヲ逞クスルハ彼ノ公利ノ假面ヲ着シテ巧ニ私欲ヲ掩翳シ得ヘキ時ニ於テ極メテ安易從容ナルモノトス然レ氏彼ノ公利ナルモノハ單ニ尸位素餐ヲ沙汰スルヲ要スル

ノミニテ之カ爲メニ人民ノ其所ヲ喪フテ艱苦窮乏ニ陥ルヲ欲スルニ非サルナリ

都テ改革ノ事ニ依テ損失ヲ蒙ルモノニハ充分ナル辨償ヲ與ヘテ毫モ不足ス可ラス之ヲ安固ノ大綱トス蓋シ改革ノ爲メニ生スル眞實ノ便益ハ單ニ永世ノ費用ヲ縮メテ一時ノ費用ト爲スニ在リ知ラサル可ラス

或ハ一時ニ無用ノ地位ヲ廢スルハ人民ノ利益ナリト言フモノアラズ然レ氏是レ空理ノ論ナリ若シ之ヲ沙汰シテ所得ノ金額ヲ以テ外國ヨリ賚ラシ來ル

命綱  
卷之三  
十五  
何氏藏板



或ハ貿易ニヨリテ所得ノ利潤トソノ性質ヲ同シク  
 爲サシメハ、人民ノ利益タルヤ喙ヲ容レヌシテ明白  
 ナリト雖モ、若シ之ヲ國民ヲ構成スル所ノ私人ノ手  
 ヨリ取ルモノトセハ、ソノ利益ニ非サルヤ復タ疑フ  
 可ラス、○譬ヘハ父ニシテ長子ノ物ヲ奪フテ之ヲ次  
 子ニ與フルヲアランニ、此舉ヲ以テ一家ノ富ヲ増ス  
 ト看做スヘキヤ、且此舉ハ一人ノ子ノ物ヲ奪ハル、ノ  
 苦ヲ蒙ムルト雖モ、必竟兄弟ノ手ニ歸シテ其富ヲ殖  
 スヲ以テソノ損益ハ一家ノ外ニ出テス、外人ヨリ之  
 ヲ見レハ敢テ一家ノ福利ヲ損セサルノ理アリ、一體

ノ人民ニ至テハ其理決シテカノ兄弟ノ間ニ於ルカ  
 如キヲ得ス、何トナレハ人民總體ニ就テ之ヲ論スル  
 ニ、改革ニ由テ得ル所ノ利益ハ、之ヲ億兆ノ衆庶ニ分  
 配スヘキヲ以テ其額忽微ニシテ絶テ一人ノ物ヲ得  
 タル感覺ヲ生スルモノナシ、而シテ沙汰セラル、モ  
 ノニ於テハ損失ノ苦、一身ニ累積シテ實ニ愍然ニ堪  
 エサル情實アリ、故ニ此舉ノ結果ハ單ニ物ヲ喪フタ  
 ル人ヲ困苦スルニ在リテ、毫モ之ヲ得ル所ノ人民ヲ  
 惠利スルノ策ニ非サレハナリ、○假令ソノ沙汰シタ  
 ル地位ヲ少數ト見做サスシテ、之ヲ百千ノ多キトス

民法論綱

卷之三

十一

何 賦 租 稅



ルモ亦是レ五十歩百歩ノ差アルノミニテ、百千ノ人ヨリ奪ヒ獲タルモノヲ以テ億萬ノ人ニ分配セサルヲ得ス、於是一方ヲ見レハ絶テ一人ノ之ニ由テ著シク富ヲ増シ産ヲ興スモノアルヲ覺ヘス、他ノ一方ヲ視レハ不幸ニシテ一旦、地位ヲ失フタルモ人喪家ノ狗ノ如ク糞々トシテ街衢ニ彷徨スルアリ之ヲ目撃スルモノハ必ス自ラ之ヲ此窮苦ノ深淵ニ沈溺セシメタルヲ反省スルニ至ルヘシ、夫レ此時ニ方ツテ悲嘆怨望ノ聲、四方ニ轟キ、其間稀レニ歡喜ノ聲之ニ和スルカ如キアルモ、其歡喜スル所以ヲ問ヘハ必ス

康福ヲ得タルカ爲メニアラスシテ、徒ニ他人ノ憂患ヲ樂ム小人ノ嫉妬ノ情ニ出テシモノナルヘシ。○噫、帝王ノ輔弼ヲ人民ノ宰官ヲ汝カ、國家民人ノ爲メニ康福ヲ増進シテ之ニ沐浴セシムヘキ政術ハ一部ノ人民ヲ患苦ニ陥レサレハ之ヲ成就シ能ハサルモノニ限ラサルナリ、公利公安ノ倚ル所ハ猶ホ神明ノ祭壇ニ於ケルカ如ク、慈悲ノ供獻ヲ捧クルニ在テ、暴虐ヲ以テ犠牲ト爲ス可キニ在ラサルナリ。此一章ハ安固ノ大綱ヲ確立スルカ爲メニ極メテ精要ノ論題ナルニ依テ、茲ニ筆鋒ヲ韜ム能ハス、必ス制

何氏藏  
反



法者ノ失錯ヲ追撃シテ、其踪蹟ヲ匿ス處ヲ發見セサ  
レハ止マサラントス

此ノ如キ大不義ノ舉ニ就テ、人其己レヲ欺ムキ又他  
人ヲ欺ムクノ辭柄ハ果シテ如何ト問ヘハ空妄ナル  
道理ヲ文飾シテ全ク其不義ヲ包掩スルニ在リ而シ  
テ其辭柄ハ信偽虛實交相雜ハリ皮膚上ヨリ之ヲ見  
レハ謀慮深遠ニシテ恰モ政術ノ玄秘ニ涉ルカ如キ  
モノアリト雖モ、其要私民ノ利益ハ應ニ衆庶ノ利益  
ノ犠牲タラサルヲ得スト謂フニ過キサルノミ、其根  
理果シテ何處ニ在ルヤ之ヲ一私民ト謂フモ衆庶ヲ

構成スル所ノ一部ニ非サルハ無カルヘシ且茲ニ一  
體ト認メタル衆庶ノ利益ナルモノハ素ト無形物ニ  
シテ彼ノ私民ノ利益ヲ統合セシモノヲ稱シテ言フ  
ニアラスヤ、制法者ハ須ラク此等ノ情實ヲ審慮ス可  
シ、決シテ一方ニ偏シテ其間ニ輕重ヲ置ク可ラス○  
若シ衆人ノ富財ヲ益サンカ爲メニハ、第一ノ私人ヲ  
損害スルヲ以テ事理ノ當然ト爲サハ寧ロ第二ノ私  
人ヲ損シ第三ヲ害シ遂ニ千萬ノ多キニ及テ一定ノ  
制限ヲ立テサルノ却テ大利アルニ如カンヤ苟モ唯  
此ヲ損シテ彼ヲ増スノ一端ニノミ着目セハ、人ノ物

民法論綱 卷之三 三 何日



ヲ取テ人ニ與フルノ理ニシテ何ソ衆寡ノ別アラシ  
 ヤ故ニ斷シテ曰ク第一私人ノ利益ハ之ヲ視テ神聖  
 犯スヘカラサルモノト爲スヘシ否ラサレハ衆人ノ  
 利益ハ動搖シテ定ラス決シテ安固ヲ得ヘカラサル  
 ナリ

夫レ眞實ノ利益ハ一私人ノ利益ニ在ラスシテ焉ク  
 ニカ在ル故ニ一私人ヲ愛護シ一私人ヲ損害セサル  
 ノミナラス更ニソノ損害ヲ蒙ルヲ救防スル時ハ  
 制法者ハ衆庶ニ對シテ能ク其大任ヲ盡スト謂フヘ  
 シ○現世ノ人ヲ措テ後世ノ人ヲ愛シ現在ノ民ヲ顧

ミスシテ未來ノ民ヲ保護シ未タ出生セサルノミナ  
 ラス其必生ヲモ期ス可ラサルモノ、康福ヲ進ムル  
 ヲ口實トシテ現ニ生活スルモノヲ艱苦ニ陥ラシム  
 ルカ如キハ愚者ト雖モ亦肯テ爲サ、ル處ナリ  
 法律ノ作用ニ依テ困難ニ沉溺スル人アリト雖モ夫  
 ノ私利ハ公利ニ讓ラサルヲ得サルノ曖昧ナル論題  
 ニ支ヘラレテ其愁苦ヲ訴フルノ門ヲ得ス假令之ヲ  
 訴フルモ亦之ヲ聽クモノ無シ社會ニ斯ノ如キ景況  
 ヲ發現スルヲ往々之アリ今假ニ私利ハ公利ニ如カ  
 スト言フ論題ヲ以テ果シテ慈仁忠厚ノモノト爲サ

民法論綱 卷之三 九 何氏藏板



ンニ將タ誰カ之ヲ施行スヘキ耶衆庶ヲシテ一私人  
 ニ對シテ之ヲ施行セシメンカ抑又一私人ヲシテ衆  
 庶ニ向テ之ヲ施行セシメンカ斯ノ場合ニ於テ其功  
 勞ヲ誇ルモノハ己カ所有ヲ保持センコトヲ希望スル  
 人ニ在ランカ將タ暴權ヲ以テ他人ノ所有ヲ強奪セ  
 ント欲スル人ニ在ランカ一正一邪自ラ之ヲ判定ス  
 ルモノアルヘシ如此公利ヲ以テ私利ヲ害スル奸曲  
 ハ舉措ハ人唯其害ヲ感シテ其益ヲ覺エサルノ結果  
 ヲ得ンカミ  
 斯ニ全體ヲ概論シテ以テ一回ノ結尾トセシ抑モ資

産ノ根理ヲ貴フテ益鄭重ナルニ從テ益人心ヲ強毅  
 ナラシムヘシ若シ僅ニ此理ヲ侵スニアラハ其大ナ  
 ルモノ必ス踵ヲ接シテ相生セシ今日吾人ノ生息ス  
 ル社會ノ如キ開化ノ地位ニ達スルハ數百ノ喪葛ヲ  
 換エサレハ能ハス之ニ反シテ安固ノ理ヲ顛覆スル  
 ハ甚タ容易ニシテ一舉手ノ際ニ成リ且カノ天性ノ  
 肉欲ナルモノ動モスレハ法律ヲ凌轢シテ跋扈憚ル  
 所ナシ是レ既往ニ經歷シタル殷鑑ナリ此事ニ就テ  
 之ヲ見ルニ人間政府ハ猶ホ馴服シタル狡狴ノ如シ  
 一タヒ人血ノ味ヲ知ラシムル片ハ忽チ天性ノ猛惡

可  
 何氏藏板



ヲ發作スヘシ

第十六回 強促ノ交易

ゼノフオノ書ニアステヤジスカ前日ノ課程ノ顛  
 末ヲサイルスニ問ヒシヲ載セリ其答ニ曰ク學校  
 ニ魁梧ナル一童子アリ其着セル袍衣狭小ニシテ其  
 體ニ合セズ因テ其袍ヲ脱シテ之ヲ他ノ童子ノ體小  
 ニシテ袍大ナルモノト交易セシメタル事アリ我カ  
 師予ニ命シテ其事ヲ裁判セシム予斷シテ曰ク事物  
 ハ各其宜シキヲ得ルヲ要ス故ニ此交易ハ彼此ノ便  
 宜相合スルモノニテ他ノ之ニ關係セサルヲ良シト

ス我カ師ハ予カ斷案ヲ聞キ其非理ナルヲ責テ曰ク  
 凡ノ事物ヲ審究スルニ方テハ先ツ其舉ノ正義ニ屬  
 スルヤ否ヤヲ定ムヘシ然ルニ汝ハ唯其合宜ノ有無  
 ノミヲ論セリ正義ノ存スル所ハ必ス他人ヲシテ其  
 人ノ所有ヲ強促シテ交易セシムルヲ許容ス可ラ  
 スト

世人ヲシテ此斷案ノ當否ヲ論セシメナハ必ス思慮  
 スルヲナク輕忽ニ答テ曰ク己ニ其物ニ相當セル價  
 ヲ與フル以上ハ強促ノ交易ヲ爲サシムルモ敢テ安  
 固ヲ侵犯スルニ至ラサル可ク何トナレハ強促サレ



民法論 卷之三 三十一 何氏藏

タル人ノ財産ハ依然トシテ其富前日ニ減損スル  
ナク使用ヲ缺カサルニ依テ假令甲ノ物ヲ取テ乙ニ  
與フルトアルモ若シ甲ニ於テ損スルトナカリセハ  
其舉ハ善良ニシテ固ヨリ歎々スルヲ要セサラント  
此言ヤ大ニ違ヘリ抑外人ヨリ見テ強促ノ交易ニ由  
テ一毫ノ損失ヲモ受ケスト思フモノト雖モ其實ハ  
本人ハ大ニ損失スル所アルヲ免レサルナリ蓋シ物  
件ハ其動ト不動トヲ問ハス其人ノ性情ニ依リソノ  
境遇ノ同シカラサルカ爲メニ各異ノ價值ヲ自負シ  
テ皆其資産ノ價ノ増加スヘキ良機ヲ希望セサルハ

無シ若シ甲人ノ住居セル家屋ハ乙人ヲシテ之ニ住  
居セシムルノ更ニ其價ノ大ナルニ如カスト爲シ之  
ニ由テ乙人ノ志ヲ達セシメンカ爲メニ甲人ヲ強促  
シテ相當ノ價ヲ以テ之ヲ賣却セシムルカ如キハ即  
チ甲人ノ境遇ニ於テハカノ乙人ニ更ニ價アル所以  
ニ依テ他日ニ希望スル所ノ天然ノ利益ヲ追奪スル  
ニ當ルヲ以テ決シテ事理ノ正シキモノト謂フ可ラ  
サルナリ  
乙人或ハ謂ハシ我レ始メ其事ノ和平ノ結局ニ至ラ  
ントヲ欲シテ甲人ニ約スルニ夫ノ家屋ノ定價ヨリ

民法論 卷之三 三十一 何氏藏



モ更ニ大金ヲ與フヘキヲ以テセリ然レモ奈何セシ  
 甲人頑固執拗ニシテ遂ニ我カ言ニ從ハサルト又答  
 テ曰ク乙汝カ與ヘントシタル價外ノ金ナルモノハ  
 唯汝一己ノ估算ニ據ルノミニテ甲ニ於テハ恐ラク  
 ハ亦夕之ヲ不足ナリト想像セシモ知ル可ラス若シ  
 然ラスシテ甲ハ此金ヲ以テ其家ノ價ニ超過スルモ  
 ノト認メナハ將ニ之ヲ看テ再ヒ得ヘカラサルノ好  
 機會ト爲サレ何ノ乙ノ言ニ樂從セサルノ理アラシ  
 キ其言ヲ容レテ交易シ速ニ平和満足ナル結局ニ至  
 ルハ必然ナリ然ルニ甲ノ之ニ從ハサルヲ見レハ乙

カ其家ノ價ヲ估算スルニ方テ其當ヲ得ス自ラ己レ  
 ヲ欺キシトハ判然タリ故ニ若シ此價ヲ以テ強テ甲  
 ノ家屋ヲ取ルトヲ許ス片ハ假令甲ニ於テハ現ニ其  
 所有ニ損失ヲ生セスト雖モ多少彼カ利益ヲ未來ニ  
 期スルノ權利ヲ害セサルヲ得サルナリ  
 乙復タ辯シテ曰ク甲ハ固ヨリ予カ購ハントスル價  
 ノ極メテ貴キトヲ知レリ而メ尚ホ之ヲ肯カハサル  
 モノハ我カ意ノ之ヲ得ント欲スルノ切ナルヲ測リ  
 知ルニ依テ此機會ニ投シテ非常ノ利ヲ壟斷セント  
 欲スルノミト



然ラハ茲ニ一個ノ根理ヲ掲出シ以テ甲乙間ノ葛藤ヲ割斷セシ夫レ一切ノ物件ハ之ヲ二類ニ分別ス可シ、其一ハ物件ノ實價ヲ有スルモノ其ハ愛玩ノ價アリテ好尚ノ趨ク處ニ從テ變動スルモノ是レナリ尋常ノ家屋、廩倉、田園、禾穀、一切ノ製造品等ハ皆テ第一類ニ屬スヘシ此第二類ノ物件ニ至テハ敢テ物質ニ異同アルニアラサルモ之ヲ愛スル人ノ心情ニ因テ輕重ヲ爲シ他人ハ擲テ瓦礫トスルモ所有主ハ之ヲ珍重シテ金玉ニ換エサル可シ故ニ決シテ強促ノ買

易ヲ爲サシム可ラス○第一類ノ如キハ他ニ大ナル損害ヲ生シテ而メ之ヲ防クヘキ方策アラサル所ハ間強促ノ交易ヲ爲サシムルモ敢テ妨ケナシトス、譬へハ我レ肥沃ナル庄田ヲ有シ、而メ之ニ通スルニ唯河岸一條ノ逕路アルノミ、適河水汎濫シテ逕路崩潰シ隣田ノ一端ヲ踏ムニ非サレハ復タ我カ庄田ニ達スルヲ得サルニ隣人ハ執拗ニシテ之ヲ我カ庄田ニ比スレハ其價百分ノ一ニ足ラス、經過スルヲ許サ、ルカ如キ時ハ則チ我レハ此頑固無情ナル一隣人ノ爲メニ夫ノ高價ナル庄田ノ利益ヲ放擲シテ顧ミサ



ルコトヲ得ンヤ、必ス強促ノ交易ニ依頼セサルヲ得ハ  
斯ノ如キハ理ノ最モ幽微ナルモノニテ動モスレハ  
之ヲ濫用スルノ害アリ、故ニ嚴ニ規律ヲ設立シテ之  
ヲ未然ニ防カサル可ラス、即チ大ナル損害ヲ防カン  
カ爲メニハ強促ノ交易ヲ爲サシムルモ已ムヲ得サ  
ル處ニシテ、夫ノ隣人ノ田地ヲ經過セサレハ高價ノ  
庄田ニ到ルコト能ハサルカ如キ案件是レナリ  
是レ英國ニ於テハ資産ノ權利ヲ貴重セシメンカ爲  
メ、殊ニ制法者ヲシテ矜慎審慮シテ以テ之ヲ處分セ  
シムル所以ナリ、英國ニ於テ若シ新タニ大道ヲ開カ

ント欲スルキハ、必ス先ツ人民ノ委員タル議院ノ公  
許ヲ仰キ而シテ之ニ干連スル諸人ノ情實ヲ審問シ、其  
后相當ノ償額ヲ覈定シテ所有主ニ配與スルノミナ  
ラス、家屋、範圍ノ如キ愛玩ノ價ヲ有スル物件ニ至テ  
ハ、尚ホ格外ノモノト認メテ之ヲ保護シ、法律ト雖モ  
敢テ侵犯ス可ラサルナリ  
一私人乃至數人ノ頑固執拗ニ依テ、衆庶ノ利益ヲ害  
スルコト顯然タランニハ、此強促法ニ據テ處分スルモ  
亦已ムヲ得サルモノナリ、故ニ英國ニ於テハソノ共  
有地ノ範圍ヲ開放スルヤ人民ノ肯否ヲ待タス、又府



邑ノ便益ヲ謀リ人民ノ健康ヲ進ムルカ爲メニハ強  
 促法ヲ用ヒテ家屋ヲ賣却セシムルト往々之アリ  
 茲ニ論スルモノハ單ニ強促ノ交易ニ在テ強促ノ移  
 轉ニ在ラス蓋シ強促ノ移轉ハ一定ノ償金ヲ與ヘサ  
 ル交易ニシテ假令其事國家ノ利益ニ相關スト雖モ  
 其施行ハ專ラ法律ノ作用ニ仗ルノミニテ利用ノ根  
 理ニ適應セシムルニ術ナク到底不義ノ舉タルヲ免  
 カレサレハナリ

第十七回 法律ノ作用ノ希望心ヲ感動スル

事

制法者ハ人ノ心情ヲ支配スル主宰ニアラス唯ソノ  
 譯官ト爲リテ之ヲ解明シ從僕ト爲リテ之ニ順從ス  
 ルニ過キサルナリ故ニソノ制定シタル法律ノ善惡  
 ハ衆庶ノ希望ニ副フヤ否ヤノ一點ニ歸スルノミ故  
 ニ法律ノ作用ヲシテ能ク此希望心ニ副フテ背馳セ  
 サラシメンカ爲メニハ制法者ハ希望心ノ趨ク所ノ  
 方向ヲ通曉シ其正鵠ヲ誤ラサルヲ極メテ重要ナリ  
 トス此一回ハ乃チ制法者ノ據テ目的トスル處ノ標  
 準ニシテ之ヲ成就スルニ缺ク可ラサルノ現像アリ  
 茲ニ之ヲ考究スヘシ



第一ノ現像 現像ニ數多アリ其中ニテ第一ノ地位ニ居テ而モ之ヲ達スルニ最モ難キモノハ未タ希望心ヲ發セサルニ先ツテ法律アラシムル是レナリ若シ能ク此社會ヲシテ新造ノ人民即チ狹提嬰幼ヨリ構成セシモノト想像スル片ハ未タ制法者ノ意向ニ抵抗スヘキ希望心ヲ懷クモノアラサルニ依テ一己ノ思慮ヲ以テ自由ニ之ヲ制御スルハ恰モ彫師カ玉石ヲ鏤琢スルカ如ク易クナルヲ得ヘシト雖モ人民狹提ニ非サルヨリハ億兆ノ胸中ニハ必ス古法舊格ニ胚胎シタル許多ノ希望心アリ其勢能ク制法者ヲ

拘束シテ我意ヲ達セシメス常ニ一步ヲ退キテ平和寛厚ノ治圖ヲ敷カシムルモノナリ法律ノ創始ニ在リト雖モ己ニ一二ノ希望心ノ其中ニ存スルアリ其故ハ未タ法律アラサル鴻濛ノ時ニ方テ既ニ資産ノ萌芽タルモノアリテ各人ソノ所獲ノ物件ヲ保存センヲ希望セサルハ無シ是故ニ法律ノ創始ニ得タル所ノ方向ハ乃チ此先天ノ希望心ニ順フモノニテ此希望心ハ乃チ新タル希望心ヲ生スルノ淵源ト爲リ混々止マシテ情願意欲ノ流瀉スル泉底漸ク深ク終ニ江河ト爲テ其勢支ユ可ラ



ス今日ニ至テ資産ノ法律ヲ變革セント欲セハ己ニ滔天ノ水勢ヲ激亂シ多少ノ抵抗ヲ來サレハ萬々能ハサルニ至レリ

若シ己ム可ラサルノ事情アリテ現ニ人心ニ逆フテ法律ヲ制定セサルヲ得スシテ之ヲ制定シ得ルノ機アラハ其效果ヲ現時ニ求ムルヲナク之ヲ遼遠ノ時ニ期スルヲ緊要ナリトス然ル片ハ現時ノ人民ハ其變革ヲ感覺スル患ナク今ヨリ生長スル處ノ後生ハ將ニ之ヲ領取スル器量アルナリ蓋シ幼者ハ前途悠久ニシテ革新改化ノヲニ薰陶サルノ餘日アルヲ

以テ其中ニハ必ス古俗舊規ヲ厭忌スル心情アリ舊習ヲ一洗スルノ好助手ト爲ルヘシ然ル時ハ當時ノ利益ヲ害セス一舉ニ得ノ效果ヲ得テ己ニ他日制法者ニ逆フヘキ人心ヲ籠絡シ得ヘキニ由テ令行レ禁止ミ各事平和坦夷ニシテ些少ノ障害ヲ見ルヲナカルヘシ

第二ノ現像 法律ハ須ラク人々ニ之ヲ通知セシムルヲ要ス通知セサル法律ハ人ノ希望心ニ於テソノ效果ヲ結フヲ能ハス又之ヲ以テ希望心ノ相反スルモノヲ防制スルヲ能ハス



此現像ハ法律ノ性質ニ關涉スルヨリモ、寧口之ヲ頒布流行セシムルノ施為如何ニ關涉スルヲ居多ナリトス、即チ法律ノ性質ハ姑ラク論セス、唯之ヲ頒布流行セシムル施為ノミヲ以テ、制法者ノ目的トナスモ、敢テ不可アルヲナキナリ

此理ハ物ノ實因ニ於ルヨリモ却テ機便ニ近キモノトス、抑、法律ノ中ニハ其性質ニ由テ大ニ解シ易キモノアリカノ既發ノ希望心ニ符合シタルモノト、人性天然ノ希望心ニ適スルモノ、如キ是レナリ此先天ノ希望心ハ人類嬰孩ノ時ノ慣習ニ依テ發生シ、而ノ

其淵源ヲ繹レハ或ハ鬼神ニ執迷スルニ出テ、或ハ偏見私意ニ成リ、或ハ便利ヲ望ムノ私情ニ發スルカ故ニ、苟モ法律ヲシテ能ク此數者ノ一ニ符合セシムル時ハ、制法者ノ心カヲ勞セスシテ自ラ人心ニ浹洽シ、敢テ渙散セサルナリ、辭ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ未タ頒布セサルノ前未タ制法者カ之ヲ制定セサル前ニ、已ニ人性中ニ此法アリト謂フカ如シ、○然レモ若シ希望心ニ逆フ處ノ法律ニ至テハ之ヲ通曉セシムルヲ容易ナラス、況ヤ之ヲ胸裏ニ銘刻シテ念々忘レサラシムルニ於テオヤカノ記憶ナルモノハ性情ノ一種



ニシテ慣習ノ事ハ常ニ之ヲ心意上ニ發顯セシムト  
 雖モ、曾テ相識ラサル新規ノ物ニシテソノ根柢ナキ  
 モノハ、人手ヲ以テ之ヲ記憶ノ區域ニ移植スルモ、絶  
 エス痿痺シテ長セサルノ僻アリ  
 拜神ノ儀式ニ於ル法律ノ如キハ最モ不利不便ノ大  
 ナルモノナリ、蓋シ其規律ハ偏專ヲ免レサルヲ以テ  
 之ヲ知ルニ易カラス、為メニ悟力記憶ヲ勞シ、而メ其  
 趣意ノ在ル處ハ人ヲシテ畏心ヲ起シ自ラ罪過ヲ認  
 メテ常ニ其心意ノ疾病アルヲ感覺セシメテ、瞬時ノ  
 間モ其胸襟ヲ開クヲ得ス、恆久解脱ノ期ナカラシ

ムルモノナリ

先天ノ希望心ハ自ラ社會ノ為メニ最モ切要ナル定  
 點ニ注瀉スルノ性質アリ故ヲ以テ盜賊欺詐ノ罪ヲ  
 犯スモノハ、外國人タリト雖モ未タ國法ヲ知ラサル  
 ヲ以テ其刑ヲ適ルヘカラス、是レ此類ノ惡行ハ人類  
 一般ノ認メテ公罪ト做スモノニテ、決ンテ國ノ異同  
 ニ依テ變セサルモノナレハナリ  
 第三ノ現像 法律ハ自ラ齟齬スル所ナキヲ要ス  
 此現像ハ第二ノ現像ト其理頗ル密接スルモノナリ  
 ト雖モ、之ヲ別派ト看做スニ足ル著明ノ事實アリ夫



レ法律ヲ制定シ以テ事物ノ秩序ヲ調整スルニ方テ、  
 若シ其調整スル所能ク舊立ノ道理ニ符合スルハ、  
 則チ一舉一措悉ク億兆ノ希望心ニ投スルハ自然ノ  
 勢ナリ概シテ之ヲ言ヘハ舊法ニ肖似セル法律ハ已  
 ニ人ノ意中ニ其幾分ヲ存スルモノナルヲ以テ其大  
 綱ヲ存シテ其節目ヲ革新スルカ如キハ大ニ法律ノ  
 カヲ增長スルモノナリ此性質ヲ具セサル法律ハ他  
 ニ應援ヲ仰ク所ナク常ニ胸裏ニ孤立スルカ故ニ之  
 ニ反對シタル道理ノ襲撃ヲ防ク一能ハス竟ニ自ラ  
 記憶ノ區域ヲ脱シ去ラサルヲ得サルナリ

人死スレハ其遺産ハ最近ノ親戚ニ歸スヘキハ普通  
 ノ規則ニシテ即チ先天ノ希望心ノ趨ク所ナリ故ニ  
 此規則ニ背馳スル一無クシテ家産紹續ノ法律ヲ制  
 定スル時ハ億兆ノ人情忽チ之ニ服從シ容易ニ之ヲ  
 理解スヘシ若シ或ハ法律上ニ許多ノ變則殊格ヲ生  
 シテ此道理ニ背馳スル一アラハ之ヲ距ル一滋遠キ  
 ニ從テ之ヲ通知セシム之ニ服從セシムル一愈困難  
 ナルヲ覺フヘシ英國ノ不文律法ノ如キ其的例ナリ  
 ○英國ノ法律ニテハ家産紹續ノ規則甚タ繁縟錯雜  
 ニシテ其中許多ノ變例ヲ包含シ加フルニ舊法官ノ



斷案ノアルアリ、以テ之ヲ調整スルノ典型ト為サン  
ト欲スルモ、其論極メテ高尚微妙ナルヲ以テ、聰明博  
學ノ士ニアラサルヨリハ之ニ依頼シ能ハサルノミ  
ナラス、之ヲ通解スルハ洵トニ一大難事ニシテ、其理  
義ノ深奥ナル猶ホ無形學ノ最モ高尚ナルカ如ク、專  
門ノ人ニアラサレハ之ニ從事スルモノ寥々タリ、而  
ノ專門ノ人ト雖モ尚ホ其全豹ニ精通スルヲ得サル  
カ故ニ、之ヲ數科ニ區分シテ各人其一分ヲ修ムルニ  
至レリ、古習ニ拘泥シテ變通ヲ知ラサル陋弊斯ノ如  
キモノアリ

新法ヲ制定スルニ方テ、其秩序若シ舊法ノ理ニ反對  
スル片ハ舊法ノ理ノ流行、益強キニ從テ、人情益新法  
ヲ不當ナリトシテ之ヲ嫌惡スヘシ、於是乎異議沸騰  
シテ新法ヲ攻撃シ、其希望ヲ達セサルモノハ爭テ制  
法者ニ暴戾殘虐ノ名ヲ負ハシメサレハ止マサルヘ  
シ  
土耳其ニ於テ若シ在官ノ人死去スルコトアル片ハ、支  
丹土帝直ニ其資産ヲ沒收シ、一モ其子女ノ艱難ヲ  
顧ミス、子女タルモノハ一朝富貴ノ樂地ヲ出テ、貧  
賤ノ苦界ニ墜落セサルヲ得ス、此法律ハ先天ノ希望



民法論 卷之三 三十一

心ヲ滅絶スルモノニテソノ淵源恐ラクハ東洋ノ諸國ニ出テシモノナラン、蓋シ東洋ノ諸國ニ在テハ人君、其官爵ヲ授任スルヤ閣官ニ限リテ然リトス、閣官ハ嗣子ナシ故ニ此法律アルモ未タ自餘ノ政府ニ於ルカ如ク大害ト爲ラサレハナリ

第四ノ現像 法律ヲシテ適當切實ナラシメンニハ、利用ノ根理ニ遵從スルノ外復々他ニ能クスヘキ無シ、是レ利用ノ根理ハ即チ一切希望心ノ歸向スル公點タレハナリ、利用ノ根理ニ適シタル法律ト雖モ、或ハ時ノ輿論ニ

背馳セサルヲ保チ難シ然レモ此背馳アルハ一時ノ邂逅ニ過キササルヲ以テ苟モ其利用ノ根理ニ的中セルトテ曉知セハ人心直ニ之ニ服從スヘシ、一旦謬誤ノ覆帕ヲ脱シテ真面目ヲ認ムルトテ得ハ人心ノ希望ハ忽チ満足シ輿論モ亦從テ之ニ傾向シテ法律ノ趣意果シテ能ク利用ノ根理ニ適スルト益、確乎の切ナルニ隨テ、利用ノ效驗ヲ生スルモ亦益、明白顯著ナリ、○若シ之ニ反シテ斯ノ如キ美質ヲ具有セス而モ強テ之ヲ文飾スルハ、或ハ一時、僥倖ニシテ其功ヲ奏スヘシト雖モ、真理ノ光輝ノ爲メニ妄誕ヲ照破セ

民法論 卷之三 三十一 可成義版



ラレ未タ日ヲ終ヘスシテ消滅ニ歸センノミ、カノ美  
 質ヲ具スルモノニ至テハ、其初之ヲ知ルモノ無シト  
 雖モ、終ニ之ヲ發揮スヘキ好機ノ來ルハ必然ナリ、○  
 抑新ニ法律ヲ制定スル時ニ方テハ、其周圍ニ血氣偏  
 心ノ濁氣アリテ之ヲ環繞シ、之カ爲ノニ一時其真光  
 ヲ遮蔽シテ人心ヲ迷惑セシメ、許多ノ工夫ヲ費サ、  
 レハ世人ノ眼ヲ此真光ニ注カシメ、之ヲ障隔スル處  
 ハ外物ヲ排除シ能ハスト雖モ、公平ノ意見、漸々發露  
 シテ其勢終ニ異說ヲ排キテ卓立スルニ至ラン、殊ニ  
 制法ノ事タル初回ニ於テハ或ハ徒ニ心カヲ費スノ

ミニテ其效ヲ收メサルコトアルモ、第二回ニ至テハ已  
 ニ經驗ニ富ミテ審カニ難題ノ所在ヲ知ルカ故ニ、預  
 シメ其難題ヲ攻撃シテ遠ニ捷ヲ奏スルコトアル可シ  
 ○其理斯ノ如シ故ニ衆多ノ利益ヲ増進スヘキ謨猷  
 ハ到底、衆多ノ歸服ヲ得テ之ヲ維持シ有用ノ法律ハ  
 其新創ノ日ニ於テハ人心ニ滿タスシテ之ヲ嫌惡ス  
 ルモノ居多ナリト雖モ、漸ク其利益ニ沐浴スルニ至  
 テハ其初メ曾テ之ヲ忌嫌セシコトヲモ忘却スルモノ  
 ナリ

第五ノ現像 法律ノ秩序體裁 律書ノ秩序體裁其



宜シキヲ失シテ人心ノ希望ヲ動揺スルヤ、其勢ハ應ニ法律ノ趣意貫通セス事理ニ適合セサルモノニ異ナラス、カノ通知スルニ難ク記憶スルニ易カラサルモノト一轍ノ果實ヲ結フニ至ラン、蓋シ各人ノ明悟カニハ一定ノ程度アリ、法律ノ錯雜繁縟ナルニ從テ、之ヲ通知シ能ハサルノ人數、亦從テ衆多ナリ、而シテ之ヲ知ルモノ愈尠ナケレハ、ソノ人心ニ浹洽スルヲ愈薄久又從テ正當ノ希望心ノ發動ヲ阻格スルノミナラス、甚シキハ之ヲ煽惑シテ不正非義ノ希望ヲ起サシムルニ至ルヘシ、故ニ法律ノ文章及ヒ其體裁ハ

ニツナカラ簡易ニシテ通シ易カラシムルヲ要スヘキナリ、且法律ハ各人ヲ教訓スル讀本タルヘキヲ以テ、ソノ疑團ノ生スルニ方テハ、各人宜シク之ヲ直ニ法律ニ商量シテ、更ニ通譯ノ人ヲ須ヒサラシムルヲ要ス  
 法律ノ趣意、益、利用ノ根理ニ適スルニ從テ、其秩序體裁モ亦益、簡易ナルヲ得ヘシ  
 法律ノ趣意、已ニ單一ノ根理ニ淵源シタル片ハ、其秩序體裁モ亦單一ニシテ、專ラ自然ニ基キテ通シ易キノ語法ヲ用ユヘシ



第六ノ現像 希望心ト闘ツテ克ント欲スルニハ人  
 心ヲシテソノ法律ハ必ス施行スヘキモノナルヲ認  
 メシムル一極メテ緊要ナリ、假令然ルヲ得サルモ之  
 ニ逆フ處ノ方向ニ趨カシムルノ道理之ナキヲ要ス  
 夫レ人トシテ誰カ法律ヲ尙免センコトヲ希ハサルモ  
 ノアラシヤ、尙免ヲ希フノミナラス法律ニ反對シタ  
 ル希望心ヲ懷クモノアリ、於是乎、人心ニ背馳スル時  
 ハ法律モ無用ノ長物ニシテ、唯刑罰ヲ施スヲ以テ其  
 作用ヲ維持スルニ過キス、而メ刑罰ナルモノモ動モ  
 スレハソノ功用ヲ失シテ、却テ法律ヲ玷辱スル所ノ

弊害ト爲ルヲ免レサルコトアリ、是レ刑罰ハ其作用、微  
 弱ニシテ欺侮ヲ受ケ易ク、其能ク罪犯ヲ懲治シテ奸  
 宥懾服スルニ至ルモ、或ハ法網疎漏ニシテ倖免ノ徒  
 之アルニ至ルモ、俱ニ治圖上ノ美事ニアラサルヲ以  
 テナリ

此根理ヲ顧ミスシテ巨害ヲ醸シタル類例、往々之ア  
 リ、彼ノローナルモノ、創意ニ依リテ銀行ヲ設立セ  
 ルニ方テ、人民ノ所持スヘキ金額ヲ制限シテ之ニ過  
 クルヲ許サ、リシカ如キ是レナリ、此時ニ方テヤ各  
 人ノ意想ニハ、必ス此法律ニ背クモ決シテ其罰ヲ施



スニ術ナシト信用セシニ疑ヒナシ  
貿易ノ事ニ數多ノ禁制ヲ設クルモ、其理ハ一ニ前文  
ニ齊シクシテ其效用ナシ、斯ノ如キ法律ハ之ヲ苟免  
スルニ易ク、恰モ人民ヲ誘掖シテ不義ノ博賭ヲ為サ  
シメ、制法者、收税關ニ對シテ孤注ノ計ヲ圖ラシムル  
カ如シ

一家ノ權利ヲ舉テ之ヲ主人ノ手ニ歸スル所以モ此  
根理ニ淵源セサルハ無シ、試ニ一家ノ權利ヲ將テ其  
妻ニ歸セヨ、形體ノ健力ハ主夫ニ在リ法律ノ權ハ妻  
ニアリテ、唱隨ノ倫序ヲ失シテ悠久和合ノ期ナカル

ヘシ、是レ則チ夫婦同權ノ虛名アリト雖モ、剛柔其志  
ヲ殊ニスルヲ以テ、必ス其權衡ヲ持平スルヲ能ハサ  
ルハ事情ノ免レサル所ナレハナリ、是故ニ舊來ノ成  
法ニテ形體ノ健カト法律ノ權利トヲ以テ之ヲ一人  
ニ付與スルハ、其作用運行ノ際ニ於テ扞格齟齬ノ患  
ナカラシムル所以ニシテ、全ク一家族ノ安寧ヲ圖ル  
ニ出テ、其趣意、一モ間然スル所ナシ  
此根理ハ亦以テ從來、法律士ノ腦髓ヲ困シメシ處ノ  
問題ヲ解クニ大有用ノモノナリ、其問題トハ何ソヤ、  
即チ若シ遺失セル物品ヲ拾ヒ得ルモノアル片ハ之



ヲ其人ノ所有ト見做ス可キヤ是レナリ、曰、此場合ニ於テ若シ之ヲ拾ヒ得シ者、法律ニ逆フテ之ヲ己カ所有ト爲スニ容易ナルカ如キ片ハ、制法者ハ宜シク此希望ヲ失ハシメサル法律ヲ制定スルトニ着眼スヘシ、言ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ、法律ヲ尙免スルト益、容易ナルニ從テ、若シ其法律ハ拾主ノ心ニ於テ之ヲ遵守シ難シト思フカ如キモノアラハ、忽チ之ヲ隱シテ尙免ヲ僥倖スルノ弊ヲ開キ、從テ益、其法律ヲ苛虐ノモノト見做スヘシ。○一喻ヲ舉テ之ヲ示サンニ、我レ地上ニ金剛石ノ遺落セルヲ見出ストアリ、其初メニ心

意ニ浮動スル處ハ唯之ヲ將テ我カ所有ニセントノ一念ナリ、而シテ之ヲ保持セントスル希望心、續テ發生スヘシ、是レ自然ノ人情ニシテ啻ニ欲望ノ偏ナルニ依テノミ起ルニアラス、更ニ資産ノ根理ヨリ相發スルモノナリ、何トナレハ第一ハ我レ之ヲ有シテ他ニ之ヲ争フモノナキ片ハ、我カ所有ニシテ之ヲ得ルハ當然ノ權利ナレハナリ、其二ハ之ヲ見出セシハ我カ功ニアラスシテ誰ソヤ、他人ハ曾テ知ルトナク全く無價ノ廢物ナリシヲ、塵埃ノ中ヨリ之ヲ發顯セシモノナレハ我レニ屬スルニ於テ何ノ不可アラント



其三ハ我レハ世人ヲシテ他ノ權ニ由テ之ヲ得シモノト信用セシムルノ辭柄ヲ生スルニ至ルマテ之ヲ秘藏スルノ容易ナルヘキカ故ニ之ヲ法律ニ知ラシメス其作用ニ背キテ所持シ得ヘシトノ自負ノ意アレハナリ○既ニ此三件ノ情實アルカ故ニ假令法律ニ於テハ之ヲ判斷シテ他人ノ所有ニ歸セシムヘシト雖モ其作用ハ以テ我カ初念ノ浮動ヲ防止ス可ラス又我カ保有セントスル希望心ヲ抑制スル能ハス果シテ之ヲ拾ヒ得タル我手ニ取テ他人ニ與フルコトアラハ我レヲシテ痛ク失望ノ苦ヲ覺ヘシムルコト外

ハアラサルヘシ此失望ノ苦ヲ與フルモノハ所謂不義ノ措置即チ暴政ノ舉動トナル故ニ苟モ他ニ之ニ勝ルノ權利アリテ之ヲ争フニ非サレハ見出セル物品ハ之ヲソノ拾主ニ與フルヲ以テ至當ナリトセサル可ラス然レハ此規則ハ拾ヒ得タル物品ヲ保有スルモ法律ノ敢テ預リ知ラサル自然ノ機會ニ於テノミ然リトス其他ノ場合ニ於テハ又變通ノ措置ナカル可ラス譬ヘハ海岸ニ於テ始メテ破船ヲ發見シ又始テ鑛山或ハ島嶼ヲ發見スルコトアリト雖モ此類ノ物タル到



底世人ニ知ラシメスシテ我カ獨占スヘキニアラサ  
ルヲ以テ法律ニ於テ之ヲ我カ資産ト認ムルヲ防  
止スルニ容易ナルヘシ○斯ノ如ク此法律ハ我レニ  
其物ヲ所有セシメサル作用甚タ著明ナルカ故ニ自  
ラ人心ニ貫徹シテ違背スルモノ尠シ果シテ制法者  
能ク此根理ニ商量スル片ハ其物ヲ發見セシ人ニ與  
フルト與ヘサルトハ自ラ其方寸ノ中ニ了々タルヘ  
シ○然ルニ茲ニ又之ヲ發見人ニ與ヘサルヲ得サル  
一個ノ元理アリ蓋シ一物ヲ發見スルハ衆庶ノ公富  
ヲ増加スルモノナルカ故ニ之ヲ其人ニ與ヘテ發見

者ノ勤勞ヲ褒賞ス可シ之ヲ公有ノ富ト爲スモ衆庶  
ノ所得ニ於テ甚タ微少ナレハナリ  
第七ノ現像 法律ト希望心トヲ調和スヘキ結尾ノ  
現像ハ法律ノ字句ヲ通知セシムル是レナリ○此現  
像ハ半ハ法律ニ賴リ半ハ法官ニ賴ル若シ其法律ニ  
過不及アリテ人民ノ智識ニ相應セサル乎或ハ時運  
己ニ文明ニ進ムモ尚ホ昔日ノ舊法陋規ヲ株守シテ  
變改セサル乎然ル片ハ司法院ハ徐ニ故套舊典ヲ脱シ  
テ知ラス識ラス之ニ換ユルニ新規ノ典則ヲ以テス  
ルニ至ルヘシ於是乎夫ノ時運ニ後ル、處ノ法律ト



新ニ流行スル處ノ習例ト軋轢シテ相容レズ、ソノ勝  
 敗遂ニ決シテ一定ニ歸スル迄ハ、法律ノ力微弱ニシ  
 テ希望心ヲ制服スルヲ能ハサルヘシ  
 法律ヲ解明スルニ法律専門ノ士ト業外ノ人民ト全  
 ク其口吻ヲ異ニセリ、蓋シ記者ノ文章ヲ解スルカ如  
 キハ記者ノ意中ノ字義ヲ啓示スルニ過キサレ、馬律士  
 ノ明文ヲ顧ミルヲナク、文外ニ新義ヲ附會シ、以テ制  
 法者ノ真意ノ在ル所ト爲ス、自負甚シト謂ハサルヲ  
 得ス

法律ヲ解スルヲ其文章ニ在ラスシテ其人ニ存スル  
 斯ノ如クナレハ、必ス人民ノ安固ヲ得可カラサルヘ  
 シ、然ルニ苟モ法律一定シテ動カサルキハ、假令艱險  
 幽微ニシテ其義ニ通シ易カラサルモ、人民ハ之ヲ知  
 ルノ機アリ、是レソノ通シ難キヲ以テ作用ハ甚々弱  
 シト雖モ、少クモ其害ノ限界ヲ料リ知ルカ故ニ、人民  
 ハ專ラ謹慎シテ舉手投足ノ細モ敢テ苟モセサルヲ  
 以テナリ、之ニ反シテ若シ法官ニ與フルニ恣ニ法律  
 ヲ譯解スル全權ヲ以テシ、法官ノ意ヲ以テ制法官ノ  
 意ニ換ヘ能ハシムルキハ、百事其獨裁ニ出テ一人ト



シテ法官ノ意ノ向フ所ヲ預料シ能ハサルニ至ラシ  
 ○此一事ハ固ヨリ害ノ至大ナルモノナリ然レモ未  
 タ以テ極度トスルニ足ラスカノ之ニ由テ生スル所  
 ノ結果ニ至テハ其害ヤ名状ス可ラサルモノアリ恆  
 言ニ謂ヘルヲアリ巨蟒一タヒ其首ヲ容ルヘキ洞穴  
 ヲ穿ツ片ハ其軀體ノ長大ナルモ從テ出入自在ナリ  
 ト今法律上ノ暴斷ヲ防クモ之ヲ巨蟒ノ其首ヲ出ス  
 時ニ於テ止メサレハ委蛇蜿蜒シテ將ニ其毒ヲ衆庶  
 ニ逞クスルト一般ナルヘシ實ニ恐レスンハアル可  
 ラス○都テ如此源頭ニ出ル處ノ不正ナルモノハ之

ヲ惡ミ避クヘキノミナラス外貌善良ノ色アルモノ  
 ト雖モ決シテ之ヲ容認ス可ラス蓋シ法律ニ超乘シ  
 タル權威ヲ僭用スル事ハ縱令眼前ニ有用ナル效果  
 ヲ結ヒ得ヘシト雖モ宜シク將來ヲ慮リ之ヲ見テ他  
 日ノ恐ルヘキ禍根タルヲ忘ル可ラス且之ニ由テ  
 所得ノ善果ナキニシモアラサレモ其實ハ極メテ細  
 小ニシテ而モ其害ハ底止スル處ナク爲メニ人民ヲ  
 驚愕シ爲メニ人民ヲ危險ニ陥レ滔々トシテソノ端  
 倪ヲ窺フヘカラス終ニ疾苦各人ノ頭上ニ墜落シテ  
 止ムヘシ



眞頑ニシテ法律ニ通セス、我意ニ任シテ法律ヲ守ラ  
 サル者ハ姑ク置テ論セス、彼ノ法官ヲシテ恣ニ律文  
 ヲ解セシムルカ如キハ、實ニ爲シ易キノ弊ヲ爲サシ  
 ムルモノニテ、法官ノ法律ニ於ルヤ已カ所欲ニ任セ  
 テ是非曲直ヲ造爲シ、時トシテハ律文ヲ直解シ、時ト  
 シテ文外ノ意ヲ紬繹シテ其身ヲ彌縫シ、文ヲ舞シ法  
 ヲ弄シテ至ラサル所ナク其術ノ巧ミナル、猶ホカノ  
 幻技ヲ賣ルモノカ同一ノ源ヨリ甘苦ノ二水ヲ出シ  
 テ觀客ノ眼ヲ眩カスカ如クナルヘシ  
 此弊ニ陷ラサルハ英國諸法院ノ特有セル品格ナリ

之ヲ概スルニ英國ノ諸法院ハ制法者ノ旨意ヲ確守  
 シテ毫モ斟酌取捨ヲ其際ニ容レズ、カノ專ラ習俗ニ  
 緣由ニシテ制定セシ所ノ缺典多キ法律ニ至テモ勉メ  
 テ先人ノ斷案ヲ墨守シ更ニ我意ヲ出ス<sub>一</sub>無シ、其法  
 律未タ完全無瑕ヲ期ス可ラサルモ、而モ之ヲ恪守シ  
 テ變通セサルカ故ニ、或ハ多少ノ不便アルヲ免カレ  
 スト雖モ、之ニ因テ英人ハカノエキス、ポスト、スケト  
 ラウ<sub>事後ノ</sub>罪法<sub>ノ</sub>如キ法律ノ世ニ行レ<sub>ン</sub>トテ恐レテ、遂  
 ニ法官ヲ拘束スル處ノ自由ノ精神ヲ發作シタリ  
 抑、法律ノ善美ヲ極ムル處ノ品質ハ固ヨリ一端ニア



ラサレ氏其要ハ自他氣脈聯貫シテ此ヲ達スルハ又  
 以テ彼ヲ成シテ彼此相離レサルニ在リ即チ眞實ノ  
 利用顯明ナル利用彼此ノ連絡簡要平易實施ノ功用  
 是レナリ此數者ハ法律ノ品質ニシテ互ニ因ト爲リ  
 果ト爲リテ決シテ獨立スヘカラサルモノナリ  
 果シテ能ク夫ノ慣習ノ名ヲ負ヘル曖昧ナル制度ヲ  
 擲却シ法律ノ全部ヲ編纂シテ典章ニ掲載シ又一般  
 ノ私人ニ關係スル法律ハ之ヲ一冊子ニ彙輯シ特殊  
 ノ人民ニ關係スルモノハ別冊ニ編集シ而メ一國ノ  
 律令憲典ハ之ヲ全體ノ人民ニ流行通知セシメ或ハ

猶太人ニ於ルカ如ク法律ヲ將テ宗教ノ一派教育ノ  
 一科ト爲シ或ハ國民ノ未タ政權ニ參與セサルニ先  
 ツテ之ヲ記憶ノ中ニ銘刻スルモノト確定スルヲ  
 得タランニハ法律ニ通曉スルヲ眞實ニシテ浮汎ト  
 ラス若シ一點ノ法律ニ違フ所アレハ忽チ之ヲ看破  
 シ國民ヲ舉ケテ皆テ法律ノ看護者ト爲シ從テ之ヲ  
 蔽翳スヘキ雲霧アラス之ニ專斷ノ解ヲ下シ苟免ノ  
 情ヲ懷クモノナクシテ欺詐ヲ容ルノ地ナキニ至  
 ラン  
 法律ノ文章體裁ハ須ラク簡易明亮ニシテ而メ敢テ



高尚ノ言語ヲ用ヒス、學術ノ力ヲ藉ラスシテ容易ニ之ヲ解明セシムルヲ極メテ緊要ナリ、抑、法律ハ億兆ノ衆庶、就中カノ蒙昧ナル者ニ之ヲ通知セシメンカ爲メニ編制セシモノナレハ、ソノ他ノ書籍ト相異ナル所以ハ、全ク其文章更ニ明了ニシテ通知シ易ク其意義亦タ嚴正ニシテ疑團ヲ生セサル一點ニ在ルヘキナリ

茲ニ人アリ、ソノ法律ヲ編制スルニ方テ試ニ此根理ヲ服膺シ、之ヲ現存ノ法律ニ較フルルハ、必ス當時ノ制度文物ニ於テ不滿ノ意ヲ起スヲ免レサルヘシ

我カ法律ノ完璧ニアラサルヤ斯ノ如シ然リト雖モ決シテカノ囂々タル詖辭、怨言ニ誘惑サル、ト勿レ、彼ノ見識ノ狹隘ナルニ由ルカ、或ハ物理ニ暗クシテ改革ノ本意ヲ失シテ、爲メニ當時ノ法律制度ニ悖戾シ、若クハ之ヲ侮慢スルカ如キ人物ニ至テハ、固ヨリ文明社會ノ法院ヲ煩ハスニ足ラサルモノナリ、良政府ハ論ヲ俟タス、惡政ノ下ニ在リト雖モ法律ノ利澤ニ沐浴スルハ幾多ナルヤ枚擧ニ遑アラサルヘシ、今吾人ノ受用スル處ノ安固資産、職業、富貴ノ數者ハ一トシテ法律ノ恩賜ニ非サルハ無キヤ、又我カ同胞タ



ル人民ノ安寧ヲ維持シ、婚姻ノ禮儀ヲ制シ、家族ノ團  
 圓ヲ得セシムルモノ、法律ノ保護ニ賴ラスシテ何ニ  
 カ賴ラン、法律ヨリ出ル處ノ福利ハ宇内ニ流溢シテ  
 日夕之ニ沐浴セリ、適、其弊アルモ一時ノ邂逅ニ過キ  
 サルナリ○然ルニ一人モソノ福利ノ源ニ溯リテ之  
 ヲ問フモノナク、恰モ事物ノ自然ト見做シテ之ヲ享  
 用シ、曾テソノ恩惠ヲ覺知スルコト無シ、之ニ反シテ其  
 弊アルニ方テハ一時ノ經過ニ止マルモノト雖モ忽  
 チ之ニ感觸シ、而メソノ不平ヲ鳴ラスニ於テハ其疾  
 苦ノ區域極メテ廣ク、時間極メテ長キモノ、如シ、斯

ク法律ハ未タ完全ニ到ラスト雖モ、之ヲ愛敬スヘキ  
 道理ハ愈、出テ、罄キサルモノアリ  
 新法ヲ制定スルニ方テハ矜慎謹密ヲ旨トセサル可  
 ラス、又全局ノ改造ヲ口實ト爲シテ百事ヲ破毀ス可  
 ラス、法律ノモノタル之ヲ毀ツハ易クシテ之ヲ修ム  
 ルハ難シ、是レ改正ノ事業ハ之ヲ粗暴輕佻ノ人ニ委  
 任スヘカラサル所以ナリ

民法論綱卷之三終



民法論  
 卷之三  
 四  
 何氏

明治九年二月十日版權免許

版主何禮之

東京府第三大區四小區  
富士見町四丁目五番地

大傳馬町三丁目 東生 龜次郎

馬喰町二丁目 島村 利助

發兌  
日本橋中通傳正町 大角 豐次郎

南傳馬町二丁目 穴山 篤太郎

書肆



